

亘理町立長瀨小学校

2014年 11月 18日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1)『大震災を乗り越えて』 亘理町立長瀨小学校前校長 武藤育子 <http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/12382.pdf>

【場所】

海岸から2kmほどの位置にある。

住所:宮城県亘理郡亘理町長瀨南原193-1

※現在は震災前に学校のあった場所の隣の敷地に新校舎を建設して再開。

【東日本大震災による被害】

校舎の1階部分が浸水。



赤い範囲:亘理町

緑の範囲:長瀨小学校

【震災当日の様子】

地震発生後、揺れが弱くなった頃に児童を校庭へ避難させ、避難訓練通り保護者へ引き渡しを開始した。防災無線で津波警報が発令され、長瀨小学校の体育館が近隣住民の避難所に指定された。教職員と残った児童56名も体育館へ避難した。役場から派遣された職員と学校で協力して避難所の運営に当たった。

午後4時頃、津波が学校まで到達した。体育館の周囲は冠水し、ぎりぎり浸水を免れた体育館で津波をやり過ごした。この体育館は新校舎建設のために嵩上げされていた土地に建てていたため、浸水しなかった。翌日全員救出され、別の避難所へ移動した。



東から見た学校の敷地跡(2014/10/31撮影)

※後方に見えるのは新校舎で再開した長瀨小学校。

【調査して言えること】

海から2kmほど離れているが、学校の標高は1mほどであるため、地震の際に津波の到達を警戒する必要のある場所である。近くに高台や高い建物が無く、標高の高い場所まで4km以上も離れており、学校外への避難が難しい学校である。



避難所の看板(2014/10/31撮影)

※水害・津波・高潮の場合は、この場所よりも標高の高い吉田小学校へ避難するように注意書きされている。



新校舎(2014/10/31撮影)

※新校舎は嵩上げた土地に建てられている。